

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り



平成 28 年 1 月 6 日 (NO.69)

浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所

第2部 パネルディスカッション

- パネラー**
- 橋本友子氏 (浦幌学園 CS 会長)
 - 水野豊昭氏 (校長会会長)
 - 江ノ上秀行氏 (上浦中 PTA 会長)
 - 川口愛莉氏 (上浦学園 CS 担当)
 - 林 常行氏 (浦幌町 CS 会長)
- コメンテーター** 出口寿久氏(マイスター)
- コーディネーター 久門好行(教育長)



提言：「今後のCS推進方策について」

(橋本氏) ●地域の人たちが、常に自分たちの学校という思いを持って見守っていきたい。

- スマートホンやゲーム機利用のルールを、子どもたち自身が決めて取り組むことが必要です。
- 地域住民が元気で活力があることが大切です。

(水野氏) ●CS が機能を発揮するキーワードは、「当事者意識」の高揚だと思います。

- そのため、アクションプランの策定では多くの人たちに集ってもらい、熟議することが大切です。
- 本町の総ぐるみの教育に確信を持ちました。

(江ノ上氏) ●上浦幌地区だけでなく、広く町内外の関係団体と連携した支援が必要です。

- 小中9年間を見通した教育課程を作る際に、保護者や地域が立案に関わることが大切です。
- 学校の負担軽減、触れ合う機会の増大が必要です。

(川口氏) ●学校と地域が連携するには、CS への思い、成果と課題を共有するです。

- 学校は年度初めに年間活動計画を提示するなど、地域への情報発信が必要です。
- CS 便りなどの広報活動を充実させていきます。

(林 氏) ■学校と家庭・地域の垣根を低くするため、声がけて関わっていく機会を増やすことです。

- 地域の皆さんが教育活動に関わることにより、達成感や充実感が生まれ、地域の活性化にもつながっていきます。
- 様々な課題解決に必要なことは、当事者意識を持って対応することだと思います。

(コメンテーター 出口氏) ■若者が戻ってくる地域にするには、地域を愛する子どもを育てることで、子どもが地域を救います。

- 小中学生は、浦幌町の将来を担う人材です。地域住民は責任を持って意見を述べ、学校を支援しましょう。歌唱「ふるさと」の歌詞、「志を果たして」→「志を果たしに」変えて歌いましょう。